



# さかえ

学校便り NO. 23  
令和8年 2月 6日  
帯広市立栄小学校  
文責 校長 新川 和範

今年度の重点: 自信をもち、貢献意識を高め、自ら学ぶ児童を育てる教育の実現 合い言葉: みんなヒーローになろう

## スケート体験学習実施

2月4日(水)の1~3校時に、4, 5, 6年生が、2~4校時に1, 2, 3年生が、それぞれオーバルでのスケート体験学習に行っていました。

オーバルでの体験学習は、平成21年の施設開設時から続いている取組であり、屋内の恵まれた環境で児童が滑走技術を高める良い機会となっております。



リンクサイドで準備体操やひもしぼりを行った後、学年ごとに滑走を開始しました。今シーズンは学習の



特徴として、他の室内リンクや外のリンクとは異なり、室内が温かいことから、途中でジャンパーなどの上着を脱ぐ児童の姿も見られました。

今年度は、気候や天候にも恵まれ、オーバルの体験学習を含め、計画通りスケート学習が実施できました。

どの学年の児童も意欲的に取り組み、1, 2年生児童が短い時間の中でもどんどん上手になっていく姿を、また、3年生以上の児童が昨年度のブランクを感じさせずに上手に滑る様子を見て、改めて実りある学習になったと感じております。



次年度も帯広市の方針に則りながら安全に楽しく冬の学習ができるよう、全職員で対応してまいりますので、引き続き、ご理解、ご協力をお願いいたします。

最後になりましたが、オーバルまでひもしぼりや見学に来ていただきました保護者の皆様、本当にありがとうございました。

## 氷のお面を搬入してきました

帯広市が誇る三大祭りの1つとして知られている、おびひろ氷まつり。今年で63回の開催を数える帯広の冬の風物詩となっております。今年も緑ヶ丘公園で、1月30日(金曜日)から2月1日(日曜日)までの3日間、開催されました。



氷まつり開催に先立ち、1月30日(金)に本校の1年生が制作した氷のお面を搬入してきました。雪像や氷の彫刻のそばを通りながら、氷のお面の展示場に進んでいきました。



1年生の皆さんは、重いお面を注意深く運び、無事に指定された掲示場所に飾ることができました。

その後、帰りのバスを待つ間、雪山で持参したそりでそり滑りを楽しみました。

## スケート教室開催

1月31日(土)に、帯広市スポーツ推進委員会主催によるスケート教室(1, 2年生対象)が本校のスケートリンクで行われました。



教室では、芦澤先生を講師にお招きして、しっかり氷に乗るコツや上手に滑れるようになるコツについてご教授いただきました。



1, 2年生の皆さんは芦澤先生の話聞きながら、それぞれ一生懸命に何度も練習していました。

今回も企画・運営してくださいました、スポーツ推進委員の飯野 隆様、中原翔太郎先生、本当にありがとうございました。

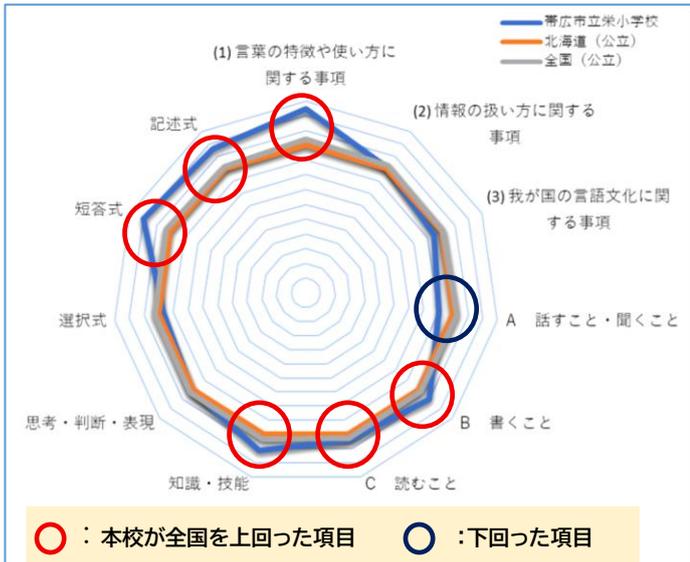
# 令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果について

令和7年度全国学力・学習状況調査は、全国一斉の悉皆調査として、令和7年4月17日(木)に、市内小学校及び義務教育学校第6学年、中学校第3学年及び義務教育学校第9学年を対象に、国語科、算数・数学科及び理科の3教科で実施されました。帯広市全体の状況につきましては、帯広市のホームページ「全国学力・学習状況調査」の結果をご覧ください。

以下、本校の調査結果をお知らせします(ホームページの内容を要約したものです)。

## ◎学力について

### (1)国語科

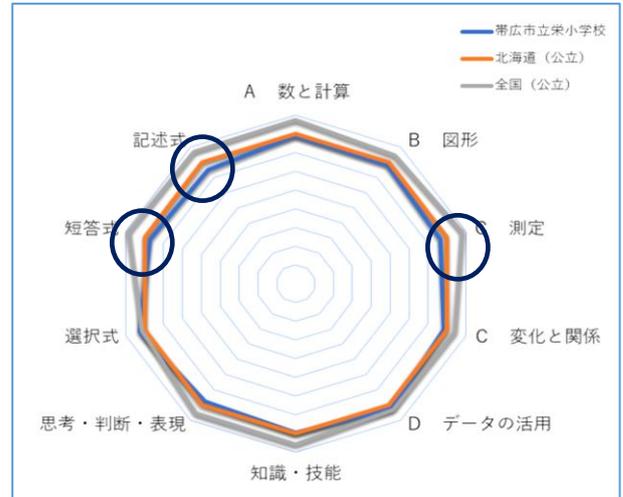


○国語科における本校の正答率は、全国の平均正答率を上回りました(「知識・技能」「読むこと」「書くこと」「言葉の特徴や使い方に関する事項」「記述式」「短答式」)。全国平均を超える項目や全国平均に迫る項目も多く、学力が定着してきている様子がわかります。

○日頃の授業の中で意図的に「書く」活動を取り入れていることや、一中エリア(一中・啓北小・北栄小・栄小)での共通した短作文の取組による効果で「書くこと」への苦手感は減り、無回答率は0%でした。

○『話すこと・聞くこと』において正答率が全国・全道を下回りました。授業の中で、目的をもって相手に伝える場面を意図的に取り入れて「聞き手を意識した話す力」を育てるとともに「話し方のモデル」や「話型」を示しながら経験を重ね、話す自信をもたせていきます。併せて復唱や質問を取り入れながら聞く力を伸ばしていきます。

### (2)算数科



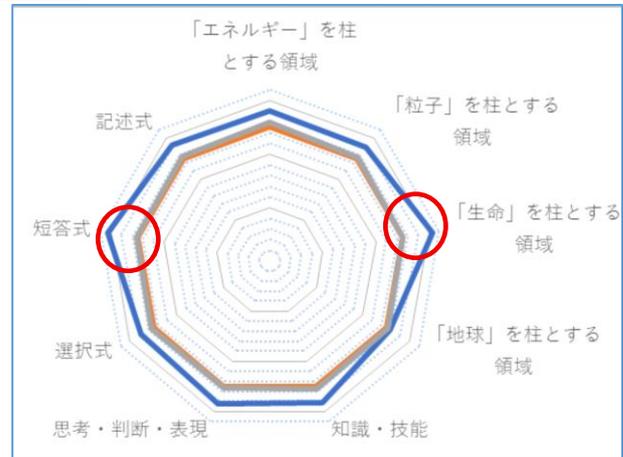
○算数科における本校正答率は、全国平均を下回りました(「測定」「短答式」「記述式」の領域では全国の平均正答率を大きく下回りました)。

○習熟度別学習や放課後学習等の成果が表れ、正答数の少ない児童が大きく減少しました。

○記述式の問題では、題意や条件をしっかりと読み取ることができるように、問題をていねいに読むことを大切にしていきます。

○5年生までの学習内容の定着のために、宿題プリントや放課後学習等において、復習に力を入れていきます。

### (3)理科



○理科における本校の正答率は、全国・全道平均を大きく上回りました(『生命』を柱とする領域「短答式」で全国の平均正答率を大きく上回りました)。

○以前に比べて記述式の正答率が大きく伸びていることから、記述式問題に慣れてきている傾向にあると言えます。問題に対するまとめを考えて記述したり、実験で得た結果から自分の考えをもち記述したりするなどの問題が出題されていることから、日頃から自分の考えを書くことに慣れさせ、抵抗なく記述できる力を付けていくことを大切にしていきます。